

金澤古蹟志卷廿八

城北堀川筋

○桶町

舊藩中是本町廿七町の一町にて、十二冊定書に載せたる元祿九年本町肝煎裁許附に、桶町・桶片原町とあり。同三年の火災記にも、袋町・桶町と載せられたれど、本名は桶屋町といへり。承應四年正月廿八日の書札に、桶屋町恩忍寺といふ事を記載し、此の後々も桶屋町とも呼びたりけん。元祿六年の土帳に、袋町の後、桶屋町とあり。或は云ふ。舊藩圖初の頃は諸職人をば夫れく一所に取集め居住せしめられたり。故に鍛冶町・大工町・大鋸屋町・象眼町などの町名皆其の職人の集り居たる地也。されば、此の桶町もそのかみ桶職の者共此の地に集り居たりし故に、桶屋町とは呼びたるならんと。按ずるに、此の説さもあるべし。能登國七尾に槍物町といふあり。此の町はいにしへ槍物師共集り居住

す。故に町名に呼べりとて、則ち町内に傳來する藩祖利家卿の印書に、町のひものや之内上手を一人申付可上候。此方のひものをも一人あひそへのほせ可申云々。と載せられたり。是等にては桶屋町の事知られけり。

○桶片原町

元祿九年本町肝煎裁許附に、桶町の次に桶片原町とあり。元祿三年火災記に、堀片原町と載せたるも同町なるべし。國事昌披問答の金澤町名附にも、桶町・堀片原町とあり。

○常福寺上地町

元祿九年本町肝煎裁許附に、上今町の次に常福寺上地町と記載す。國事昌披問答には、上今町之内常福寺上地町とあれども、享和三年幕府へ進達金の澤町名書に、桶町の下註に常福寺上地町を載せたり。桶町の繼きなる故也。今此の町名絶えたり。

○常福寺舊地

木、新保常福寺明細帳に、慶長十二年金澤に本願寺別院起立之際、別院看坊被命、金澤陀羅尼鍛冶町に於て地所百廿九坪拜受、當寺創立す。とありて、初めて此の地に造立し、